

貂尾字也、人或不審蓋不見爾雅也。

〔三代實錄光孝四十七〕仁和元年正月十七日癸酉天皇御建禮門觀射禮是日始禁著用貂裘但參議已上

非制限、

〔延喜式彈正四十一〕凡貂裘者參議已上聽著用之、

〔古今著聞集武九男〕鬼同丸究竟のものにて、いましめたる繩金鎖ふみ切てのがれ出ぬ狐戸より入て、頼光のねたる上の天井にあり、此天井引はなちて落か、りなば勝負すべきも、異儀あらじと思ためらふ程に、頼光も直人にあらねばはやくさとりけり、落か、りなば大事と思ひて、天井にいたちよりも大きにてんよりもちいさきもの、音こそすれといひて、誰か候とよびければ、綱名乗て参りけり、

〔源平盛衰記三十三〕依行家謀叛木曾上洛事

斯リケル處ニ、木曾西國下向之時、乳母子ノ樋口次郎兼光ヲバ、京守護ニ候ヘトテ、留置タリケルガ、十一月○壽永二年二日早馬ヲ立テ、十郎藏人殿コソ、鼬ノナキ間ノ貂テホカ誇トカヤノ様ニ、院ノキリ人シテ、院宣ヲ給リ、木曾殿ヲ可奉誅、其聞ヘ候ヘト申シタリケレバ、○下

〔倭名類聚抄毛十八〕黑貂 唐韻云、貂有黃貂黑貂、出東北夷、黑貂、和名、布流木、

〔箋注倭名類聚抄獸七〕廣韻云、貂、鼠屬、出東北夷、與此不同、戰國趙策云、李兌送蘇子、明月之珠、和氏

之璧、黑貂之裘、黃金百鎰、按黃貂、即前條貂是也、黑貂、李時珍所謂紫黑色、蔚而不耀者、當是天工開

物亦云、貂產遼東外徼、建州地及朝鮮、國色有三種、一白者、白銀貂、一純黑、一黯黃、黑者、即黃

貂、純黑者、即黑貂也、

〔類聚名義抄多四〕黑貂フルキ

〔西宮記臨時八〕皮衣